令和５年度　全国学力・学習状況調査から（後期課程）

小美玉市立小川北義務教育学校
令和5年　10月

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析をもとに、本校の子どもたちの学びの力をさらに伸ばすために学校や家庭で大切にしたいと考えられる内容をまとめたものです。「確かな学力の定着」を実現するために、学校と家庭、地域が一体となった教育活動を展開し、子どもたちの学力向上を目指して、引き続き取り組んでいきたいと思います。

令和5年度 本校の教科の学力状況（中学校）※県の正答率は、整数値で公表

	国語	数学	英語	本校の総括
小川北義務教育学校	○	○	◎	・北創タイムで計画を立てて家庭学習に取り組んでいることや落ち着いた態度で授業に取り組んでいることが、基礎基本の定着につながっている。 ・「根拠を明確にして、自分の考えをまとめる力」に課題がある。学び合いの機会を充実させ、互いに考え方を説明し合う活動を多く取り入れていきたい。
茨　城　県	71	51	45	
全　　国	69.8	51.0	45.6	

◎：県を上回っている　○：県と同等程度　▲：県を下回っている

【本校の調査結果から】

【国語科】

《成果》
・文脈に即して、漢字を正しく書いたり、歴史的仮名遣いを正しく現代仮名遣いに直したりすることができる。
・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。
《課題》
・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。
・古典の原文と古典について解説した文章を対応させて、どこがどのように工夫されているのか、文章中の表現を取り上げて書くことに課題がある。
《改善方法》
・自分の考えを書いたり発表したりする際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げる活動【根拠に基づいたアウトプット】を取り入れていく。
・古典の原文に、分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章を教材に加えるなど、複数の教材を読み比べて表現の違いを味わう活動を取り入れていく。

【数学科】

《成果》
・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
・グラフを用いて事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる。
《課題》
・基礎的、基本的な計算技能に課題が見られた。
・図形についての考察場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。
《改善方法》
・授業の中で復習内容に力を入れて、学び直していく。
・根拠を明らかにしながら、証明を書いてみること、そして、書いたものを読み合い、改善して正しい証明を完成させることを繰り返すことで、図形を考察するための思考力、判断力、表現力を身に付けていく。

【英語科】
《成果》 ・聞き取り問題において、情報を正確に聞き取ることができる。 ・短い説明文の要点を捉えることができる。 《課題》 ・不足している語を補い、会話が成り立つように英文を完成させる力に課題が見られた。 ・日常的な話題について、自分の考えをまとまりのある文章で書く力に課題が見られた。 《改善方法》 ・授業において、教師やALTからの英語での問いに答える活動を充実させていく。 ・「導入―本論―結論」という文章構成の意識をもたせ、First～, Second～, のように順序立てて理由や根拠等を表現させる活動を取り入れていく。

【生徒質問紙の結果から】

(1)生徒質問紙調査の主な分析結果

【成果】	【課題】
○ 97.2%の生徒が、「朝食を毎日食べている。」と答えている。	▲ 22.2%の生徒は、「起床時刻がほぼ同じ時刻であるが, 就寝時刻にばらつきがある」と答えている。 →生活のリズムを整えることが必要である。
○ 94.4%の生徒が、「学校に行くのは楽しい」と思っている。	▲ 77.7%の生徒が、「自分には良いところがある。」と感じている。 →否定的な思いをもつ生徒が約20%いるので、活躍場面で賞賛し、自己肯定感を高めていきたい。
○ 94.4%の生徒が、「人の役に立つ人間になりたい」と思っている。	▲ 33.3%の生徒が、将来の夢や目標をもっていない。 →職場見学、職業体験を通したキャリア教育を進めたり、やりがいについて考えさせたりしていきたい。
○ 家庭学習時間は、2時間以上が58.3%、1時間以上が94.4%以上となっている。(平日) 家庭学習時間は、2時間以上が69.5%、1時間以上が88.9%以上となっている。(休日) →北創タイムでの計画立てが効果的であるといえる。引き続き、家庭学習の時間の確保を呼び掛け、学習時間を増やしていきたい。	▲ 25.0%の生徒が、学校の授業の時間や家庭学習の時間以外には、読書を全くしていないと答えている。また、41.7%の生徒が、読書を好きでないと答えている。 →今年度も「ブックトーク(本の紹介事業)」を実施したり、読書活動を呼び掛けたりしていく。

(2)ICT機器に関する分析と対策

学校質問紙の結果によると、「学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立ちますか。」という質問に対して、生徒の約90%の生徒が、ICT機器は学習の役に立つと肯定的に捉えている。しかし、「授業時間以外にどの程度使用しましたか。」という質問に対して、「30分以上、1時間より少ない」と回答した生徒の割合は97.2%であり、市や県と同様低かった。これは、全国的に見ても同じような傾向となっている。

本校では、生徒にタブレットの持ち帰りをさせて、ドリル機能での復習を推奨したり、教科によってクラスルームに課題を提示したりしているが、再度次の2点を確認して、今後もタブレットの活用を推進していきたい。

① 家庭学習の中での活用の仕方を再確認する。 例)ドリル機能、クラスルームでの連絡事項のやりとり など

② 便利な活用法・効果的な使用法について、生徒・教職員間で情報を共有する。

【まとめ】

学習面では、「確かな学力の定着」を実現するために、各教科における課題の改善に取り組んでいきます。また、ICT機器を効果的に活用して、「試行錯誤をする時間」「考えを説明する時間(アウトプット)」「振り返りをする時間」を重視した探求的な学びを推進し、「教わる」から「学ぶ」への授業改善を図りたいと思います。

生活面では、引き続き、学校での取組はもちろん、ご家庭でも規則正しい生活を送るための支援を続けていただきたいと思います。また、子どもたちが前向きな生活を送れるように、日々の励ましや温かい声掛けなど自己肯定感が高まるような支援についてもお願いいたします。